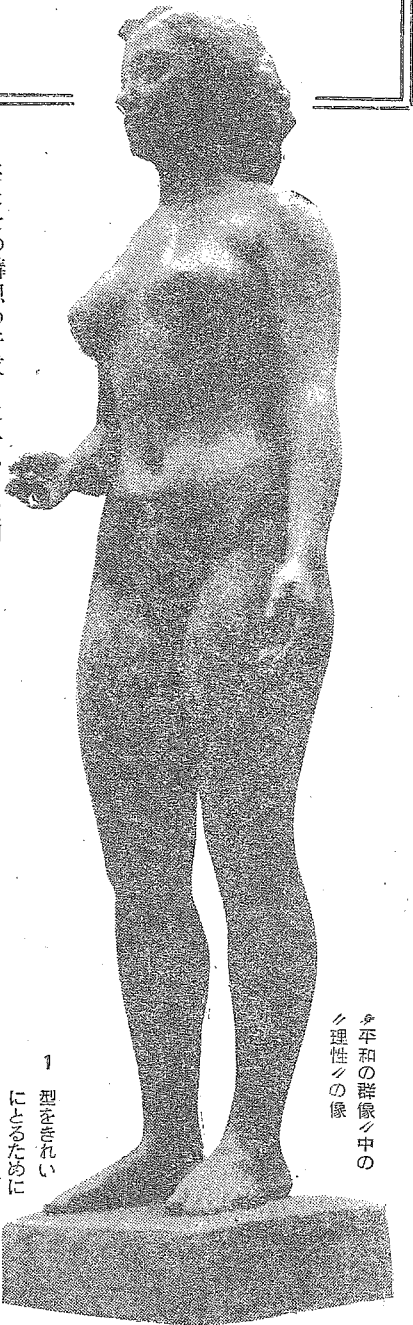


ニュースへの 反響を見る

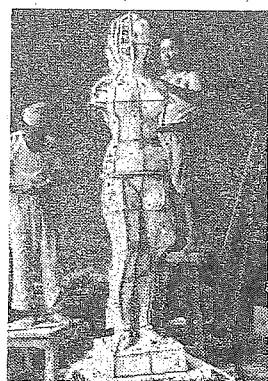


夕平和の群像の中の
理性の像

1 型をきれいに
とるために
石膏をふりかける



2 石膏の上を鐵筋で補強し再び
石膏を厚く塗る



さとその構想の奇抜さにおいて類例
ないものであり、多大の注目を惹い
ていることを示唆している。

またこれより先六月五日付東京新
聞にも「平和日本(二つの銅像)と二
段抜きで東大構内に建設決定の他の
銅像とともに紹介されて、市民の注
意を呼んでいる時、詳細に報道され
た毎日新聞の記事は、いよいよ東京
都民の関心をそそぐたものである。

名古屋で発行されている夕刊毎日
新聞に、さらに同地の「夕刊新東
海」七月六日付紙面「海潮音」欄に
「ピリケン像と女人像」と題して興
味ある讀物を提供し次のように述べ
ている。

……こんどミラタリズムの本拠、三宅
坂にあつた寺内元帥の銅像のあとへ

「三人の女人の裸像」が、神々しく美
しい姿で出現する。知と意と愛、三位
を一体として端麗麗美の女人像。電通
創業五十年を記念して、名彫刻家菊池
一雄氏が、腕をふるつたものらしい。

この寺内像のあとへ文豪夏目漱石の坐
像をとの議もあつたが、これは漱石み
ずから「馬鹿な真似はよせ」と地獄の
門から伝言して寄越したので沙汰や
み。かくは眉目うるわしき女人像の出
現となつたものである。こんなのは、
歴史と現実をゴツチャにする心配はな
し、だいいち見た目にきれいだし、他
にもドンドシできるがよろしい。女人
は万人に崇有され、美は永遠につなが
るがゆえに——と。

このような新聞記事によつて全國民の
注意を呼んでいるとき、英文雑誌「タイ
ム」七月十日号にも次のように紹介され
る話題の中心となつた。

第一次世界大戦当時陸相だつた元帥
寺内正毅の東京の銅像が撤去された跡

に愛情、理知、意欲とを象徴する三人の
女性裸像が建設されることになつた

美の街頭進出

夕刊朝日は十月六日付で「美の街
頭進出」と題し「今日の問題」欄で
本社「平和の群像」等を引用して
都市美と街頭彫刻との調和を論じ、
次の如き要旨のことを述べているが
本社の企畫の如きは、まさにこの論
旨にも添うものであり、論者が懸念
し、注意を喚起している今後の廣告
宣傳とタイプアップの彫刻の街頭進出
に對して好個のタイプを示すもので
あらう。

今日の問題——いま都美術館

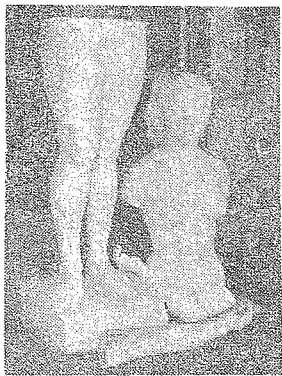
3 鐵筋をつかつた雛型であるが外圍では
厚く石膏を塗る



4 中の石膏の固るのを待つて外の雛型を
とりこむ



5 てき上つた石膏像、これから石膏師の
手から彫物師の手へついで



6 彫物師は青銅の雛型をつくる



で開いている新制作派展に、二つ
の銅像が話題を投げかけている。一つ
は本郷新氏の「わだつみのこえ」
(戦歿學生記念像)であり、他は
菊池一雄氏の「平和の群像」(試
作と部分)である。悩み深い青年
裸像をかたどつた前者は、やがて
東大図書館に建てられ、裸婦三體
に理知と希望を語らせた後者は、
かつて軍閥はなやかなりし三宅坂
の一角に置かれるそうである。良
心的な作品が、學園なり、街頭な

り、公園なりに飾られることは大
いに歓迎せられてしかるべきだろ
う。いままでも日本で銅像といえ
ば軍人とか、志士とか、政治家とか
でほとんど獨占されてきた。どこ
か威壓的で、教訓的で、好戰的で
英雄崇拜的で、これみよがしに空
にそびえている、というのが日本
人の銅像に對して懐く感じではな
かつたらうか。もちろん人物の像
がいけないというのではない。日
本人がいつまでも尊敬するに足る
藝術家とか、世界的文化人などの
像が好ましいと思われるのである
。それも職人の仕事ではなくて
像そのものが美術品としての價值
を持つていなければならぬ。ま
た、どんなに立派な人物の立派な

銅像が作られても、それが公園や
街頭の廣場とはなはだしく調和が
とれなければ、これまた都市美と
いう點から歓迎されないことにも
なる。このごろ、廣告宣傳とタ
イアップしていろいろの彫刻が街
頭に亂立するようである。それが
醜惡なものでない限り、真正面か
ら悲難されるべきではないかもし
れないが、それにはよほど注意が
されないと、街の美化が逆効果を
生むおそれなしとしない……。
という論旨であつて、美の街頭進
出はまことに結構だが、それにはそ
のものが藝術品であり、かつまた都
市美の見地からその建設は考えられ
ねばならぬというのである。本社の
「廣告記念像」は、その藝術性から